

# 『風は南から』

令和5年度 校長室便り  
(5月9日)(第3号)



## 探究学習の魅力

これから私たちは、少子高齢化社会、災害や感染症等の不測の社会的危機との遭遇、高度情報化社会での知識の刷新やICT活用の習得、外国の人々を含めた多様な他者との共生と協働等の、予測困難な変化や急速に進行する多様化などの、様々な問題に対応していかなければなりません。



そのために高校では、答えが一つではない課題に誠実に向き合い、それらを自分のこととして捉えて、他者と協働しながら自分の答えを見出していくための、思考力、判断力、表現力や、これらの基となる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けることが求められています。それらを実際に体験しながら学ぶのが、総合的な探究の時間になります。

沖高では、「沖高みらい探究プロジェクト」と称し、地域の方々の協力を得ながら、地域のことを知り、地域の抱える問題等について考えていく学習になります。

そこで、皆さんに紹介したい人物がいます。前任校(鶴丸高校)で今年の3月に卒業した「久木田紫絵留(くきたしえる)さん(現在は大学1年生)です。先日MBCテレビの番組で特集されていました。

彼女は、小学6年生でアロマセラピーの資格を取得し、高校1年生の時に、その資格を生かして製品を製造し販売する会社「ルシエルフュゼ」を母親と一緒に設立し、それから高校生でありながら会社の社長として奮闘していました(演劇部の部長も務めていました)。

いちき串木野市出身で、市の特産品で廃棄される「サワーポメロ」という果実からオリジナルの製法で精油を抽出し、一つ一つ手作業で、ルームフレグランスを作って販売しています。現在は、その商品がいちき串木野市のふるさと納税の返礼品にもなっており、昨年はシンガポールにも進出し、完売になるほどの大好評だったそうです。

彼女のこだわりは、あくまでも地域のものを活用し、商品を通して地域の魅力を発信することです。現在は、鹿児島市にある平川動物園でコアアが食べ残したユーカリの葉からルームフレグランスが作れないか研究しているようです。

皆さんの研究の中からも同じように、沖永良部の抱える問題を解決するヒントになったり、島の魅力を発信できたりするような、ワクワクする研究が生まれることを期待しています。まずは、身近な問題から取り組んでみてはどうでしょうか。

## 「沖高みらい探究プロジェクト」始動

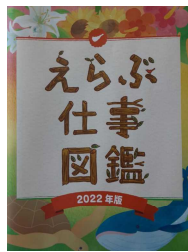
総合的な探究の時間(せりよさ)を使って、1年次では、普通科が立志塾やディベート学習に取り組んでおり、商業科は就業体験学習や地域貢献活動に取り組んでいます。そこで、2年次では、1年次の取組を発展させて、普通科と商業科の全員で、「職業人インタビュー」と「テーマ別探究学習」に取り組むこととなります。



4月27日(木)は、第1回目の2年生対象の「せりよさ」の時間に、係の先生方から今後の学習する内容や計画について説明がありました。

「職業人インタビュー」は、島内の事業所に自分たちで取材をして、「えらぶ仕事図鑑(冊子)」を作成し、小中学校へ配布したうえで、完成報告会をすることになります。「テーマ別学習」は希望者で取り組み、日頃から疑問に感じている課題やテーマについて、調べたり校外でフィールドワークに取り組んだりしたことを自分で、またはグループで考えをまとめて、都合がつけば、各種コンテストやコンクールに提出することになります。

この活動を通して、探究の見方・考え方を働かせて教科横断的な学習を行い、自分の在り方や生き方を考えたり、課題を発見し解決していく力を養ったりすることになります。教室の中での学びを超えて、自らの学びをぜひ豊かなものにしてください。



## 令和4年度「奈良女子大学・文学部人文社会学科」に合格した先輩より

(常識がひっくり返る時)

私はこの3年間で、自分の常識というものが、何度ひっくり返ったかわかりません。脳の温度が一気に下がるようで、心臓がひやひやするような「あっそうなのか・・・」という自分の目から見える世界がガラッと変わってしまうような感じでした。あるときは、世界一タフな生き物についてだったし、あるときはメタバースという未知に触れたときでした。ヨーロッパはなぜ「西洋」と呼ばれるのか、日本ってどんな国なのか、先進国と途上国、新興国と差違ってなんなのか。他にも所有の仕組みとか、ナノメートルの世界とか、円周率をどこまでも追いかけてみるだとか、常識が覆る瞬間なんて、いつ訪れるかわかりません。「それなら、これはどうなるんだろうか・・・」って心の臓をざわつかせながら考えてみる。そういう経験を10代のこの時期にできたのは、自身の形成において本当に大きなことだったんだと、今改めて思います。



皆さんにも、先輩のように、自分の常識がひっくり返る思いを積み重ねてほしいと思います。

## 春の全国交通安全運動が始まります! (5月11日(木)~20日(土))

スローガンは、「横断歩道はしっかりと見えてたしかめて」になります。4月1日から「自転車安全利用五則」が15年ぶりに改訂され、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されました。本校は多くの生徒が、自転車・原付バイクを利用しています。交通ルールを厳守し、ゆとりを持って運転するように心がけてください。自分の命は自分で守りましょう。



## 「一燈照隅 萬燈遍照」

安岡正篤氏が述べた言葉ですが、大きなことを口にするよりもまず、自分がいるその場所を明るく照らす努力をすることが大切だということを意味します。自分が信念を持って一生懸命にやり続けたことが、結果的に誰かのためになる。アフガニスタンで現地の人々のために井戸を掘り続けた中村哲医師が、まさに「一隅を照らす」人だと思えます。

